



地震災害から命を守るためには？




地震発生時、あなたがとるべき行動

地震が起こったら、まず揺れから身を守ることが大切です。身を守るための対処法を覚えておきましょう。揺れから身を守った後は、状況を確認するために情報収集をしましょう。

屋内にいたら

家の中では

- 大きな揺れを感じたら、テーブルの下に隠れ、身を守りましょう。
- 裸足で歩きまわらないようにしましょう。
- 乳幼児や病人、高齢者などの安全を確保しましょう。




会社では

- 窓際や資料棚など、物が落ちてくる場所から離れて、机の下などに入って身を守りましょう。

学校では

- 先生や校内放送の指示に従いましょう。
- 教室にいたるときは、すぐに机の下にもぐり、身を守りましょう。
- 窓や本棚から離れましょう。



エレベーターの中では

- 自動停止した階で降りましょう。自動停止しなければ、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出ましょう。
- 閉じ込められたときは、非常ボタンやインターホンで連絡を取り、救出を待ちましょう。




安全確認 電気・ガス

避難が必要な時には、ガスの元栓や電気器具からの出火を防ぐためブレーカーを切り避難する。

屋外にいたら


繁華街では

- ガラスや看板などの落下物に注意しましょう。
- 頭上からの落下物があるときは手荷物などで頭を守りながら、近くのビルなどに逃げましょう。




地下街では

- 柱や壁に身を寄せて、あわてずに揺れが収まるのを待ちましょう。
- 火災が発生した場合は、ハンカチなどで鼻と口をおおって、壁づたいに姿勢を低くして地上を目指しましょう。




電車の中では

- 転倒や落下物に注意して、つり革や手すりにつかまりましょう。
- 座っているときは、足を踏ん張って上体を前かがみに、手荷物などで頭を守りましょう。



車の運転中では

- 道路の左側に停車し、揺れがおさまるまで車内ラジオなどで情報を聞きましょう。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ロックせず、車検証などを持って、徒歩で避難しましょう。



地震から身を守る方法

まずは!

- 落ちついて、自分の身を守る。
- 揺れがおさまってから、すばやく火を始末する。
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。



次に...

- 火元を確認、出火していたら初期消火。
- 家族や周りの人の安全を確認。
- 非常持出品を手近に用意する。
- 逃げるときは靴をはく。

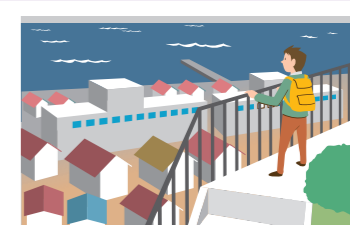




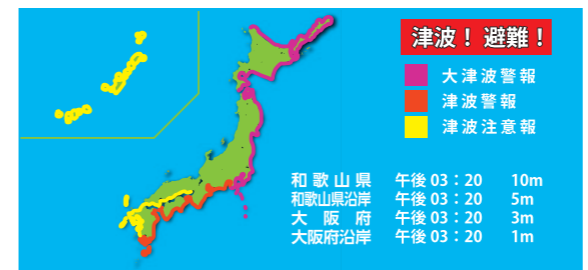
津波から避難するときは



津波発生時の命を守る行動

津波から身を守るためには、「高いところへ一刻も早く逃げる」ことが大切です。津波から身を守るための避難行動のポイントを覚えておきましょう。

予報の種類	こんな時には	まずはこのような行動を
<p>大津波警報</p> <p>3m程度～10mを超える“巨大”な津波が予想されます。厳重に警戒してください。</p>	<p>強い地震や長時間の揺れを感じた</p> <p>大津波・津波警報が発表された</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●海岸から遠い場所に避難する。(南海本線や府道752号より山側を目指す。) 
<p>津波警報</p> <p>1m～3m程度の“高い”津波が予想されます。警戒して下さい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●海沿いの地域以外の人でもテレビやラジオで警戒を続ける。 
<p>津波注意報</p> <p>高いところで1m程度の津波が予想されます。注意して下さい。</p>	<p>津波注意報が発表された</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●海辺にいる人はすぐに海から離れる。 ●沿岸部にいる人は、避難準備をする。 



津波警報とは

津波警報は、気象庁が地震発生時に、地震の規模や位置をすぐに推定し、予想される津波の高さを地震が発生してから約3分程度を目標に発表するものです。

これは、阪南市の防災行政無線をはじめ、テレビ・ラジオなどのマスコミや緊急速報メールなどを通じて伝達されます。

津波から逃げる3つのポイント

- 1 より遠くより高く逃げる**

津波からの避難は、まずは、遠くに逃げましょう。(南海本線や府道752号より山側) さらに、できるだけ、高い場所に移動しましょう。
- 2 原則、避難に車は使わない**

多くの人が同時に車で逃げると、渋滞が発生するおそれがあります。また、踏切が閉じたままになることもあり、車では横断できない可能性もあります。
- 3 小さな揺れでも安心しない**

津波の危険な地域では、小さな揺れ(特に長く揺れた場合など)でも、油断せず、避難を最優先に考えましょう。

共通編

風水害編

地震災害編

ロケットからの備え

共通編

風水害編

地震災害編

ロケットからの備え